

○ エネルギー需給見通しの問題

わが国のエネルギー消費量は、家電の大型化、エアコンの普及等にもない、今なお増加傾向にあります。こうした実績や今後の消費量の推測から「長期エネルギー需給見通し」が立てられています。このなかでは、増加するエネルギー消費を賄うために、原子力発電所の増設などとともに、風力・太陽光発電といった新エネルギーの総供給量を 2010 年度には 2000 年度の 3 倍（1 次エネルギー総供給の 3 %）とする目標を掲げられています。

いずれにしても、こうした右肩上がりのエネルギー供給計画をいつまでもつくり続けること自体に問題があるといえます。デンマークやスウェーデンなどの国々では、将来のエネルギー消費を大幅に下げることが前提に、社会の変革に取り組んでいます。（図）

「エネルギーが必要、だから環境に優しい風力発電を積極的に導入する」というのは、わが国のエネルギーあるいは環境問題の根本を無視したアプローチであり、エネルギー消費をいかに減らしていくかの議論がまず必要といえます。

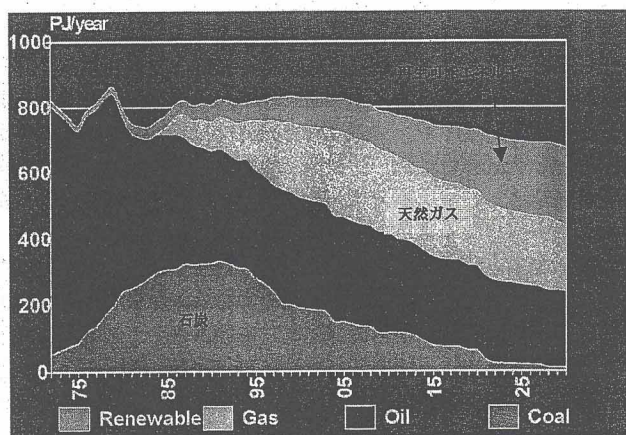


図 エネルギー消費の推移と成長予測（デンマーク）

出典：「Energy 21」Danish Ministry of Environment and Energy 1996